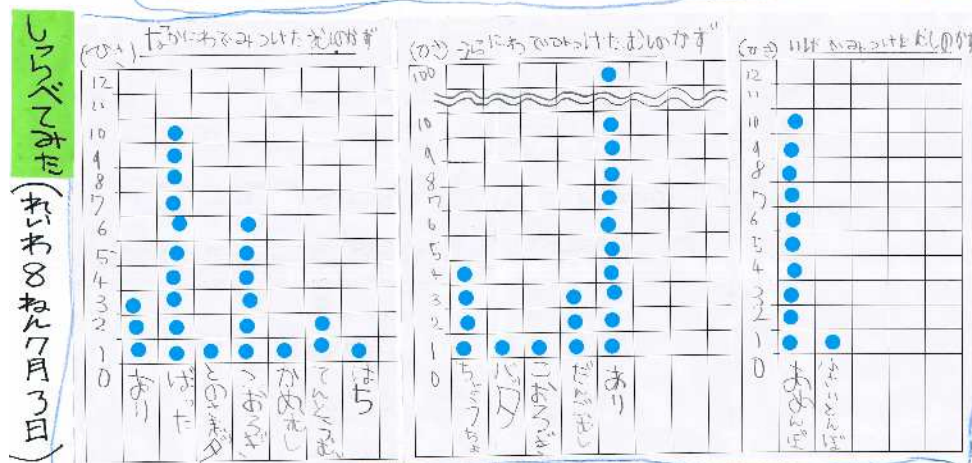


## 浜田市立岡見小学校 2年 山本 幸來

おしのすきはなはし。

まちおかしんをみつけました。かっこうにはどんな  
おしかにどこにやんいるのかしらへてみたくなりました

木の下のあたりは"のなかのいそぐさ"。  
てんとうむしが"たくさんいるとおもいます。

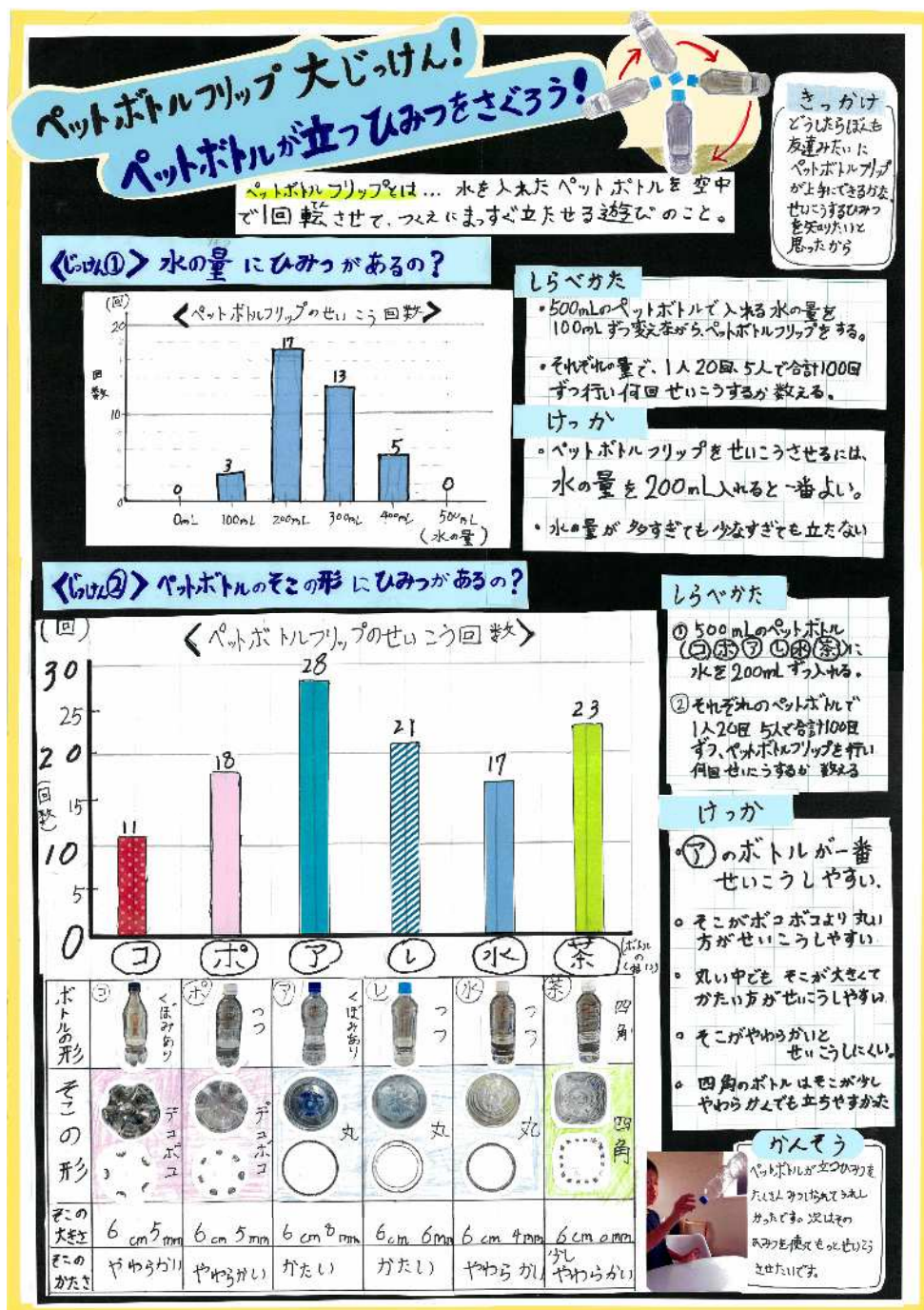


なかにわがおしのかずをおおいた。  
ありとこおるぞい。バタはなかにちん  
もうにわにいた。  
いんにはながきはおしなかりかた。  
おしよ、あつりのかになてたかみさ  
のちにかへておとち。

## 【第2部特選:ペットボトルフリップ大じっけん！ペットボトルが立つひみつをさぐろう！】

出雲市立高浜小学校 3年 小野 宏明

友達との遊びをきっかけに始まった「ペットボトルフリップ大じっけん」。ユニークな着眼点と、成功の秘密を知りたいという素朴な疑問を合計 100 回の実験で徹底的に調べ抜く行動力が素晴らしい。ペットボトルの形状別に比較する表やグラフで、データを見やすく表現する工夫も光ります。家族と一緒に実験しているほほえましい光景が目に見えます。



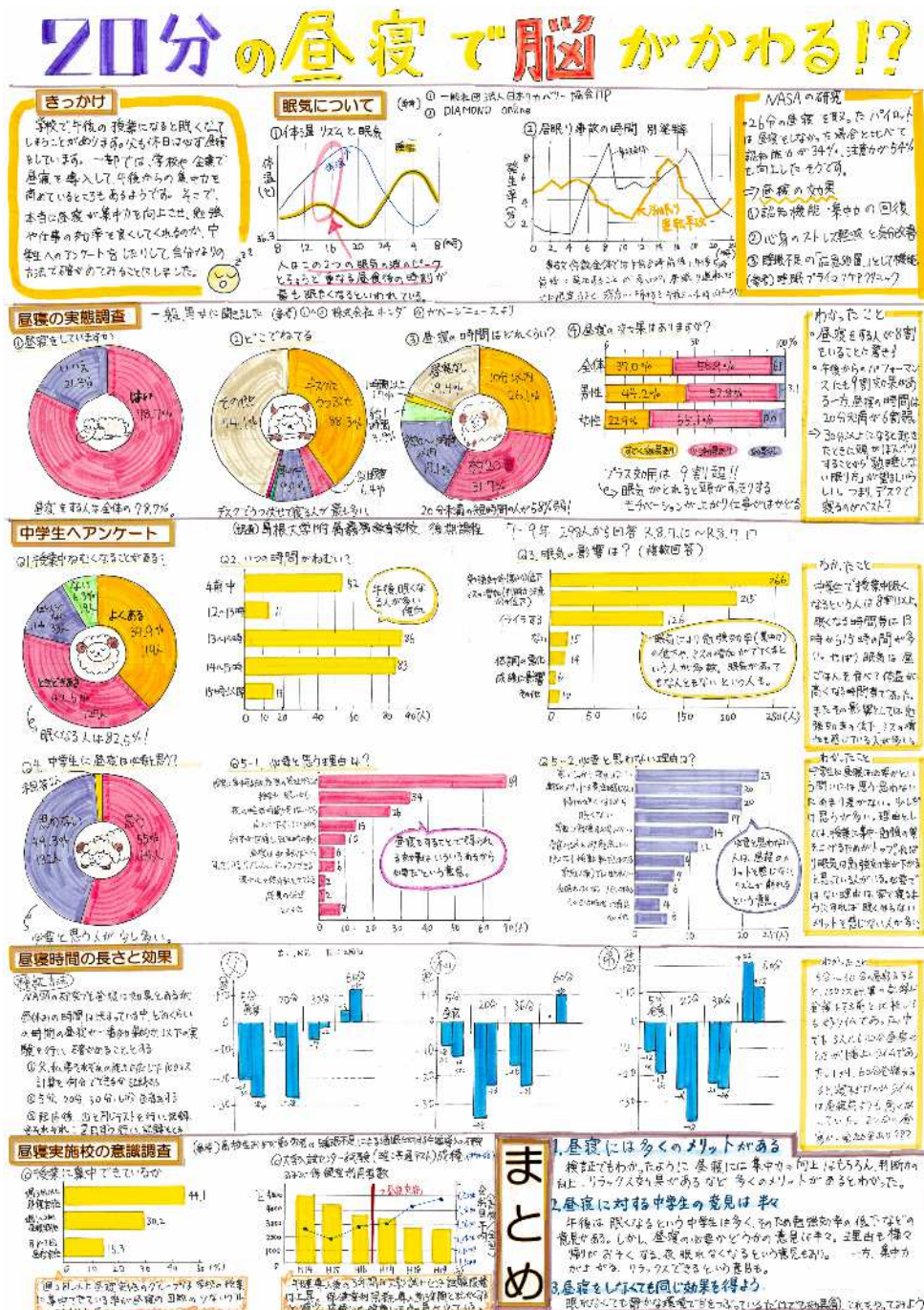
## 【第3部特選:給食タイムマシーン 2018→2025】

出雲市立平田小学校 6年 岸本 芽

毎日の給食から物価高という経済問題を見つけ、丁寧に調査・考察した研究です。詳しいデータに基づくグラフ展開と、項目ごとの効果的な使い分けが素晴らしい。テーマにふさわしい色づかいで統一され、きっかけから調査、考察までが分かりやすくまとめられています。身近な疑問を深く掘り下げた、よく整理された作品です。



中学生の学校生活から「昼寝と眠気」というテーマを設定。約 300 人のアンケートと HP 資料を組み合わせ、多角的に分析する工夫が優れています。グラフを細かく読み解き、円グラフと棒グラフを使い分けて見やすく表現。実態調査と資料調査が織りまざった構成で、多くの人の関心を引く身近な問題を、丁寧に掘り下げた作品です。



松江市立第二中学校 3年 岡田 泰輝

過疎をどうやって止めるか？  
～神々の国・島根のいまとこれから～

松江市立第二中学校  
3年 岡田泰輝

「動機」

近年、鳥獣害を含む地方での課題として挙げられているのが、過疎化です。戦後、高度経済成長期の地方から都市への人口流出が激増となった過疎化は、21世紀となった今、更に深刻なものとなっています。松江市に住む私自身も、街を歩いていると、出会う子どもが少いと感じることがあったり、市口市口の空き家が放置されたりするのを見ることがあります。松市の減収や公共施設の閉鎖、木次橋の廃棄をめぐる議論など、公的な面でも過疎と無関係ではないのが身にしみて感じられます。そこで、統計データから見た鳥獣害の地理的現状と、解決の糸口を探りたいと思います。

## 1. 島根と過疎

島根県の人口はどうなっている？



**人口動態**  
島根県では自然減と社会減が並行して進んでいて、毎年1万人近く人口が減少しています。

県外転出者の年齢別割合  
島根県では若い層の流出が多く、  
2025年には約8,000人(15~34歳の  
合計)が県外へ転出しています。

まとめ  
鳥根集に若者が残らないため、少子化や相対的に高齢化の進む原因となり、過疎化の一因になっています。

## なぜ若者は島根県に残らないのか？



高等学校卒業生の進路  
高校卒業後、およそ半数が大学・短大・141ほどが専修学校に進んでい  
方、約15%が県内就職、約5%が県外  
を選んでいきます。

15~24歳の県外転出理由  
15~24歳の若い層では、6割近くが就職学を機に県外に転出しています。一転勤や転塾・転校が理由の場合もあります。

**まとめ**  
高等学校卒業後、およそ半数が大学に進学しています。進学にあたり、その多くが県外に転出しています。専門学校に進んだり、就職する卒業生も約4割を占め、社会人となる人材は多いです。

## 島根県の経済は魅力的か？



**まとめ**  
島根県ではこれまで経済が停滞していたものの、コロナ禍でマイナス成長に転じ、その後は順調に成長しています。その経済成長は、宿泊・飲食サービス業の急激な回復や製造業などの実定成長が支えています。また、高齢化が進んでいるため、医療・福祉の従事者が多くなっています。

## まとめ

鳥根県では過疎化が進んでいる。

「人口」

- ・若者が海外へ流出→自然数の大きな差が社会にも進んでいる→人口減少人口減少
- ・高校卒業生、大学卒業生の多くが海外へ進学→国内の優秀な人材が少なくなる
- ・高校卒業生の約3割が国内留校→労働力の減少による雇用調整止められている
- ・田舎田のうち、前住がトップ→若者が高い賃金や海外生活に魅力を感じていると考えられる

＜経済＞

- ・高齢化が進んでいる→医療・福祉の従事者が多い
- ・「アベノミクス」によって一極化が進んでいる→コナラ産の反動、製造業や卸売・小売業の不振
- ・失業率は市場規模が大きく、安定成長している→海外からの外資・高い技術力を持つ

## 2.過疎化を止めるために

### ①関係人口の創出

2014年に日本郵政金融網にも変更された消滅可能性都市のリストに、岐阜県内の15名の自治体が入りました。2024年発表のリストで鳥取県の消滅可能性都市は大きく減少しましたが、消滅可能性都市の岐阜県内では若年女性比率は減少を続けており、消滅の兆候はますますと高まっています。若年女性比率の減少が顕著な自治体は、若年女性比率の減少の速度が鈍化していることを示している可能性もあります。

その「肉親」に基づいた家族観や地域化のあり方に目を向けていく。関係人口。それは、若者ではない。移住にまだたがってない。移住したわけでもない。これまであった人口動態とは全く違う人口態です。鳥栖の家庭に構える人、鳥栖県外へ出る人と移住を行う人などが関係人口に該当します。関係人口が広がると予想しています。

「新たな生き方を創出する」  
「関係の紐帯を持つ人々が入ることで、地域に新たな血を吹き込む」

などの地域への負の影響が期待されています。

島根県では居住人口あたりの関係人口が0.28人と、全国(推定2023年、実際の数値は推計結果より異なる)の前年0.22人と、全国より関係人口の割合が高くなっています。島根県から若年女性を含めた関係人口をさらに割り出すことで、日本の健康を先進的に消費している島根県が、過疎化を止め、先進国となる可能性を秘めています。関係人口が、島根県の過疎化をストップさせるための力になっていく。

**<出典>** (2026年6月・7月利用)

[illegible]

## ②若者に選ばれる「ものづくり」へ

進駐化の現状を分析した結果、鳥取県の経済成長を支えているのは、製造業が主であるとわかりました。そのため、鳥取大学・松江工業高等専門学校・県内の工業高校と県外、全国が提携して鳥取県の製造業を盛り上げていることが大事になります。製造業に若者が集まるようにするため、鳥取県に有利な環境を整えることができると期待されます。



## 製造業のこれから

島根県には、島根大学・高専・工業高校といった即戦力となる体系の人材を育てる教育機関があります。島根大学商合理工学部を卒業した学生は大半が製造業や情報通信業・地方公務員といった職業を選び、即戦力となっているのがわかります。

一方で、工業高校を含む多くの教育機関では県外求人逐年増加し、県内企業との人材獲得競争が激しくなっています。一定期間県外県で働く代わりに、奨学金を給付するなどして県民県に帰ってもらう対策が必要になるでしょう。

[illegible]

高橋大学は地理学部の組織を内政学部の内政学系に改組した。  
<http://www.shimane-u.ac.jp/~frcs/0940883535yoyaku/keiho2005/>  
 私大は 2023年度、総合型選抜・大学入試センター試験併用。  
<http://www.shimane-u.ac.jp/~admission/keiho2024/keiho2024.html>  
 東工芸大学  
<http://www.wit.ac.jp/keijodocuments/content/001884145.pdf>  
 2020年度の募集人口総数

## 島根県立松江北高等学校 2年 影山 亜胡

コンビニエンスストアのトイレという身近でありながら社会性の高いテーマを選択。有料化問題まで視野に入れた一貫した分析が秀逸です。経済面・道徳性など多角的に掘り下げ、日本の「あたりまえ」を問い直すメッセージ性に富んでいます。精緻で美しいグラフ表現とまとめのクオリティが高く、世界的視野を持つ問題提起として、深い思考力が伝わる作品です。

